

## 病院レストランを考えよう！ワークショップレポート

6/28（土）9:00～11:30 川崎市立井田病院 新棟 2F 会議室

### 【参加者背景】

参加人数：31名

※以下はアンケート回収者のみのデータ

年齢：20代4名、30代5名、40代11名、50代5名、60代3名、70代1名

男性17名、女性12名

講演の理解：理解できた25名、大体理解で1名

ワークショップの内容：面白かった28名、まあまあ面白かった1名

### 【意見の一覧】

傾向としては「安らぎの場」「コミュニケーションの場」「情報を得る場」「時間つぶしの場」という意見が総じてとても多かった印象です。「コミュニティのための活動の場：レストランが空いている時間を生かす」といった意見（+具体策）も多くみられました。

※似たような意見はまとめさせて頂いております。

- ・食や病気、検診などの情報を得る場
- ・病院レストランではバランスの良い食事を食べられそう
- ・イメージ的に「体によい」「健康」と結びつきやすい
- ・レストランを図書室の分室にする：本を読みかけになればリピーターになるかも
- ・競合はなさそう
- ・継続するためにはビジネスとして成立すること
- ・サービスが変化し続けること
- ・院内ならでの付加価値が必要
- ・栄養士の常駐：栄養指導をいつでも受けられる→患者が改善した食生活に対するフィードバックが得られる、モチベーションの維持につながる
- ・キッチンスタジオの設置
- ・病気別（糖尿病やアレルギーとか）の推薦メニュー+レシピの公開
- ・患者の家族のための病院食の体験メニュー
- ・子供への食育
- ・利用者の健康への意識を高めることができる
- ・正しい情報を知ることができる
- ・緑が欲しい、庭園、オープンカフェ

- ・健康志向と食事・料理への興味関心という両方のニーズを満たす場
- ・病院レストランが特殊な場→日常的な場へ
- ・「～の日」などイベントによる集客：栄養士や医師から指導
- ・イベントはカンフル剤に過ぎないので、ストーリー性をもって
- ・イベントや企画などの意見が出たが入院患者にとっては難しいのでは
- ・病院の外にレストランやカフェを出す
- ・病院の経営者にも参加して欲しい
- ・ブランドメニュー：病院ならではのテーマ食
- ・患者さんによる「メニュー総選挙」
- ・ネットカフェ
- ・明るい場（ハレの場）：そこでパーティーをする（誕生日とか）→明るい雰囲気的空間にしてほしい！
- ・バリアフリー
- ・病院が高齢者の場所だけでなく、近隣や様々な人の場になる
- ・病院レストランというと健康食を考えがちだが、一般食も必要
- ・近所の住民が利用しやすいレストラン
- ・レストラン内に診察番号表示：待ち時間に利用できる
- ・医食同源をテーマに
- ・地元野菜を利用「地産地消」：地域との密着、地元としっかりとつながる
- ・コミュニティの場として機能させることができれば・・・
- ・治療から離れた気分転換の場
- ・お酒の提供や喫煙も、「くつろげる場」としては必要か
- ・全面禁煙
- ・病院レストランは「院内の公園」
- ・「チーム・ダイエット」を企画
- ・患者同士（+医療スタッフや一般の方）の交流の場
  - 医療者も、一般の方と同じフロアで食事をするべき：医療者の「人間らしさ」が垣間見える？
  - 医療者同士では患者さんに聞かれたくないような話もしているので・・・という意見も
- ・入院患者の家族や見舞客が病院から離れることなく食事や休息が取れる
- ・病院レストランに気軽に入ってよいと知らなかった：近所の方が気軽に来られる
- ・広告ができないなど様々な制約：行政への提案や働きかけも必要では
- ・病院レストランを利用するターゲットごとに考える
  - 入院患者：ちょっとの量でも季節を感じられるもの、飲み込みにくい人も食べやすいもの、食事制限ある人も満足できる
  - 外来患者：カロリー表示、減塩食

→健康診断の人：がっつり食べられるもの

→付き添いの家族：日替わりメニューでいつでも食べられる

→地元の学生とか：ボリューム

- ・ 医師自身の健康維持のための場
- ・ 栄養士の活躍の場
- ・ 病院レストランはPRが難しい
- ・ 食を通じて五感を刺激する
- ・ リピーターをつくる、増やす
- ・ まずは病院としての思想を明快にし、その中でレストランが担うべき役割を考える
- ・ 時間帯制サービスの提供：空いている時間の利用→市民のワークショップやイベント会場として（市民が病院を活用できる）
- ・ 一人になれる空間、病院内で数少ない安らげる空間、ほっと一息つける場
- ・ 「患者さん」→「お客さん」となり自由になれる場
- ・ ご家族とのプライバシーが保てる場：区切られた空間もほしい
- ・ 会話を楽しめるスペース
- ・ 入院患者さんの「目標」の場：あそこでご飯を食べられるよう元気になるぞ！
- ・ 患者さんが病院給食かレストランか選ぶことができる
- ・ 退院後の食事のお手本としたいメニュー
- ・ やり方によっては地域活性になる
- ・ 人々はつながりを求めている：コミュニティからの意見の集約
- ・ 地域のNPOなどと協力
- ・ 患者さんが作ったものを展示、販売
- ・ 教室や勉強会の開催：糖尿病食とか→市民報に載せる
- ・ 地元民にとって「あのレストランに行けば健康になれる！」
- ・ 飲み物の充実：デカフェ、日本茶、ハーブティー、ブルーベリージュースなど
- ・ 1F部分に色々な施設があつて街のようになっていけば患者と医療者の垣根が無く集える
- ・ レストランの立地が重要（1Fのわかりやすい場所）
- ・ 食は楽しみ、食べることは生きること
- ・ スタンプカード：雨の日はポイント2倍
- ・ 面会時間や待ち時間の時間つぶしとしての場：呼び出しシステムがあれば・・・
- ・ 畳の空間
- ・ 音楽（BGM）の充実
- ・ 娯楽スペース
- ・ 子供用のスペース：入院患者がそこで（子供に）面会できる
- ・ カフェテリア方式でいろいろ選べる：カロリー制限ある方も、取りすぎると機械が判別してアラームが鳴るシステムをつくるとか

- ・院内への食事や飲み物の出前
- ・職員の宴会の場所
- ・ノンアルコールカクテルの提供
- ・ケーキの提供
- ・宗教食の提供
- ・院内の喫茶や院内外のがん患者カフェなどと立ち位置がかぶるか？
- ・エリアビジネスの展開
- ・全国的に展開できる